

子育て・教育部会 審議状況

第2回	4月25日	(木)	開催
第3回	5月28日	(火)	開催
第4回	7月 2日	(火)	開催

(1) 子育てが楽しくなる地域環境

多様な人と人のつながり（まちのあり方）

発言内容

- ① 親は、子どもを泣かせてはいけないというプレッシャーを感じている。地域として、子どもが泣いても良いという雰囲気になれば良い。
- ① 地域住民が子どもや保護者を知ることが大切である。そこから見守りの輪が広がっていくと思う。
- ② 地域の大人、関係機関、民間事業者等、様々な人たちがいっしょになって地域の子どもに関わっていく、子どもに優しいまちづくりが必要である。
- ③ 保護者が子育てを楽しめない状況におかれることもあるので、保護者同士が悩みを話し合い、共感できる場・受け止めてくれる場があると良い。

答申のイメージ

- ① 子どもやその保護者が、地域の人々から見守られ、のびのびと安心して子育てができています。
- ② 地域の中の多様な主体の連携により、まち全体で子どもの育ちを支えている。
- ③ 保護者同士がそれぞれの悩みに寄り添い、共感できる場がある。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 保護者が子育てに疲れたときに、自分の時間を持てるよう、一時的に子どもを預けられる環境が必要である。
- ① 空き家や商店街の空きスペース等を活用して、子育て家庭の交流の場を増やしていく必要がある。

答申のイメージ

- ① 子育てに疲れた保護者が、自分の時間を持ち、息抜きできる場所が身近にある。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 例えば、プレーパーク等、子どもが自由に楽しく活動的に遊べる地域環境（遊び場）の整備が必要である。
- ① 子どもには自ら工夫して遊ぶ力が備わっている。子ども自身が、創意工夫して遊ぶ、ルールも自分たちで決められるような公園があると良い。

答申のイメージ

- ① 子どもが自由に自ら遊び方を工夫し、元気に楽しく遊べる環境が整っている。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 家庭の事情が子どもの放課後の生活に現れると思うので、家庭に複雑な事情を持つ子どもが何も聞かれずに居られる場所が必要である。
- ① キッズ・プラザだけでなく、多様な子どもの居場所を確保する必要がある。
- ② 悩みを抱えていながら、どこにもつながっていない保護者への支援が必要である。
- ② 初めて子どもを持つ産前産後期の保護者は孤立しがちだと思うので、特に支援が必要である。
- ② 多胎児の保護者の育児への負担は大きいと思うので、重点的に支援する体制が必要である。

答申のイメージ

- ① 様々な事情を持つ子どもが、静かに見守られ、安心して過ごせる居場所が整っている。
- ② 妊娠・出産期の悩みを抱えている保護者が、相談・支援につながり、安心して子育てができています。

(2) 子どもの命と権利の保護

多様な人と人のつながり（まちのあり方）

発言内容

- ① LGBT、外国人など、個々の違いを認め合うことができる子どもを育てていくことが大切である。
- ① 子ども同士が、多様性を認め、他者への思いやりや配慮を理解しあうことができる環境が必要である。
- ② 少しくらいなら叩いても良いと思っている親もいるが、体罰は良くないという認識が定着すると良い。
- ③ 自分が心配されていると感じている子どもは少ないと思う。周りの大人が子どものことを気づかい、子どももそのことを感じながら成長できる地域になると良い。
- ③ 子どもが自己肯定感を持てる教育が行われると良い。

答申のイメージ

- ① 子どもは、人それぞれの違いを受け入れ、他者への理解や思いやりの心を育てている。
- ② 体罰や暴言で子どもを傷つけてはならないという認識が定着している。
- ③ 子どもたちが、地域から大切にされていることを感じながら成長している。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 校則等について、子どもと学校がフラットに語り合えることが大切である。
- ② 子どもが主体的に考え、自分の気持ちや意見を言える環境を整えることが大切である。

答申のイメージ

- ① 子どもたちが、大人とともに考え、語り合える環境が整っている。
- ② 子どもたちが主体的に考え、公の場で自らの気持ちや意見を表明できる環境が整っている。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 区が子どもの権利条例を策定を目指していることは、良いことだと思う。子どもの権利を地域全体で守っていくことが必要である。
- ① 区が、児童相談所の設置を予定していることは、良いことだと思う。地域全体で、子どもの虐待防止に取り組むことが大切である。
- ② いじめは防止対策が大切なので、学校と保護者、地域とが密に連携しながら協働して取り組むことが大切だと思う。
- ② 不登校の問題は、学校以外にも相談の場があることが大切だと思う。
- ③ 子どもを犯罪や交通事故等から守る活動が、地域全体で推進されていると良い。
- ③ 登下校の安全が確保されている必要がある。
- ④ 子どものいる生活困窮世帯ゼロを目指す必要がある。子ども食堂や学習支援等の取組みを進める必要がある。

答申のイメージ

- ① 児童虐待の発生予防・早期発見につながる環境が整い、子どもの権利が地域全体で守られている。
- ② いじめや不登校などの問題の解決に向け、学校と保護者、地域、関係機関とが協働して取り組んでいる。
- ③ 子どもが犯罪や交通事故から守られ、安全・安心に暮らしている。
- ④ 子どものいる生活困窮世帯への支援が地域全体で行われている。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 子どもの虐待等の相談業務を担当している行政職員や学校の先生が、100%の力を出せる職場環境が整っていることが大切である。
- ① 区のアンケート調査で、子どものしつけ・育て方に大きな戸惑いや不安を感じている保護者の割合が多いが、しつけや育て方のどの部分に感じているかを聞く必要がある。

答申のイメージ

- ① 職員は、子どもや保護者の状況を把握しながら、それぞれの専門性を活かした相談・支援を行っている。

(3) 地域の子育て力

多様な人と人のつながり（まちのあり方）

発言内容

- ① 児童館は、異なる年齢の子どもが一緒の場においてタテの関係ができる良い交流の場になっている。
- ① 子ども同士で解決させ、大人は口を出すのを我慢するというのも大切である。
- ② 外国籍の子どもが戸惑うことなく生活できる支援が必要である。
- ③ PTA活動は母親の参加が多いように思うので、父親の声を教育や地域活動に反映することが必要である。
- ④ 地域のつながりが希薄化してきているので、地域のイベントへの親子の参加を増やす等、地域と子ども・子育て家庭が接点を持ち、地域の力で子育てに取り組むことが大切である。
- ⑤ 子どもが地域の様々な大人と接する機会があると良い。
- ⑤ 地域で活動する大人が子どもの手本となり、子どもが自らも活動しようと思ってくれると良い。

答申のイメージ

- ① 異なる年齢の子ども同士の交流や、子ども同士で問題解決することを学ぶことができる場が整っている。
- ② 外国籍の子どもが地域で受け入れられ、地域に溶け込んでいる。
- ③ 保護者が、それぞれの立場で、地域の子育て支援に関わっている。
- ④ 地域と子ども・子育て家庭がつながりを持ち、地域の力で子育てができています。
- ⑤ 地域の活動に子どもが積極的に関わることで、子どもが地域の一員となり、地域が活性化している。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 私立の学校に通っている子どもに、地元に向けてもらうことが大切だと思うので、現在区が実施しているハイティーン会議を充実すると良い。また、親子で参加して街について語る親子会議等、子育て世帯の声をもっと反映できる仕組みがあると良い。
- ② 人の入れ替りが激しい中野区では、全世代で、地域の記憶を共有していく仕掛けが大切である。
- ③ ダイバーシティの観点から地域を活性化していく必要がある。大学生や区で増加している外国人と連携することが、新しい価値を生み出し、地域を活性化することにつながる。そのためには、中核となる「地域を活性化するキーパーソン」を区が把握し、連携することが必要である。
- ③ 区にある大学との連携を、より進めていく必要がある。
- ③ 区に通勤・通学してくる人たちの力も地域の活力向上には必要である。

答申のイメージ

- ① 子どもたちが地域のことを知り、地域に愛着を持っている。
- ② 人やまちが移り変わっても、地域の記憶が共有・継承されている。
- ③ 大学生や外国人などの新たなプレイヤー同士がつながることで、地域に新しい価値が生まれている。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 学校が安全な子どもの良い居場所となると良い。特に校庭は広いので、良い活動の場となると思う。学校は、安全面からも地域の支援者と連携をとっていくことが大切である。
- ① 子どもが試行錯誤できる教育環境を整備する必要がある。
- ① 子どもが働く大人の話を聴いたり、プロスポーツや芸術に触れたり、動物と触れ合う等の様々な体験をする機会を作ることが大切だと思う。
- ② 区が地域活動のネットワークづくりを支援することで、地域の子育て力が増す。
- ③ 活動できる場があれば、自分たちのやれることをやろうという区民はいる。区の支援を強化してほしい。
- ③ 母親が地域活動をしたくても、子どもがいるとできない場合があるので、例えば、活動時間中に一時保育が利用できるような支援が必要である。

答申のイメージ

- ① 学校と地域が連携・協力し、ともに子どもたちが安全で安心できる環境を整えるとともに、様々な体験や学習の場を提供している。
- ② 地域団体がつながり、子育て支援活動が活性化することで、地域の子育て力が高まっている。
- ③ 区民が、関心のある活動に気軽に参加できる場が整っている。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 区のチラシがもっと魅力的なものになると、事業に参加したくなると思う。
- ② インターネット上には子育てに関する情報があふれており、誤っているものもある。正しい情報が伝わる環境の整備が必要である。
- ③ 家庭に近い環境で子どもが育てられるように里親制度を進めてほしい。

答申のイメージ

- ① 区は、区民が魅力を感じる情報を発信している。
- ② 子育てに関する正確な情報が保護者に伝わっている。
- ③ 事情があり親元で暮らせない子どもが、里親などにより、安心できる環境で養育されている。

(4) 自らの可能性を伸ばし成長する若年世代

多様な人と人のつながり（まちのあり方）

発言内容

- ① 区内にある高校で地域の町会と連携している例がある。そういった取り組みを区が把握し、他の高校に紹介する等、高校と地域とのつなぎ役になると良い。
- ② 外国籍の若者が、日本のコミュニティに入っていけるように支援する必要がある。ハイティーン会議のような取り組みにも、外国人に入ってもらい、外国人のニーズを同じ若年世代で理解・共有してもらおうと良い。

答申のイメージ

- ① 中高生が、学校の枠を越えて、多様で豊かなつながりを持っている。
- ② 国籍を越えて若者同士が交流し、多様な価値観を共有している。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 活動的なことをしたい若年層に、学校の生徒会やボランティア活動の延長線で、学校の枠を越えて参加できる取組みを提供すると良い。
- ② 若者がロールモデルとなる人から話を聞くことができる等、地域に若者の自由な居場所があると良い。

答申のイメージ

- ① 区内の高校生と地域の間で交流が生まれ、新たな地域の活力が生まれている。
- ② 中高生は、地域に活動する場所があり、地域の一員として活躍している。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 市民意識を持っている若年世代が、地域の課題等について議論し、その意見を区が取り入れることができるような仕組みが必要だと思う。

答申のイメージ

- ① 中高生が語り合い、自らの意見を区に伝え、反映できる仕組みが整っている。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 義務教育後、高校等に通えず、家にひきこもってしまうようなケースについて、行政が把握し、支援が続く仕組みがあると良い。
- ② 区等が行っているボランティア等養成講座が、若い人にとってより魅力的な内容になると良い。
- ② 小学生とは別に、中高生の放課後の居場所が必要である。

答申のイメージ

- ① 不登校やひきこもりの状態にある子どもへの一貫した相談・支援体制が教育と福祉の両面から整い、社会的自立につながっている。
- ② 中高生の興味に応じた活動ができる場が整っている。

(5) 社会の変化に対応した教育・保育

多様な人と人のつながり（まちのあり方）

発言内容

- ① 子どもだけでなく、大人になっても学び合う環境が整備されていると良い。
- ① 図書館は、資料を収蔵しているだけでなく、図書等を活用した情報共有や交流の場へと変化していくと良い。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 子どもが自分の好きなこと、やりたいことが見つけやすい教育が行われると良い。
- ① 子ども一人一人の個性や特徴を伸ばす教育が行われると良い。

答申のイメージ

- ① 生涯を通じた多様な学びの機会と学びを通じた人とのつながりが地域で作られている。

答申のイメージ

- ① 子ども一人ひとりの個性を伸ばし、可能性や夢を育む教育が行われている。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 幼児教育の質の向上のため、すべての就学前教育施設が密に連携する仕組みを今後も継続・充実していく必要がある。
- ② 保護者や地域が、教育を学校だけに丸投げせず、地域全体で支援するためには、支援者と学校のニーズをコーディネートする機能をより充実していく必要がある。
- ② 区民は、区立学校の校則を知らないので、周知するとともに、区民参加で作れると良い。
- ③ 子どもたちにICTについて特化して教えることができる人材を整える必要がある。民間企業との連携等により、地域の人にICTの知識を身につけてもらうと良い。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 特別な支援を必要とする子どもであることを受け入れられない保護者が、早期に支援に結びつくようにする必要がある。
- ① 特別な支援を必要とする子どもが切れ目なく支援を受けることができる体制の整備が大切だと思う。
- ② インクルーシブ教育システムの構築を進める必要がある。
- ③ 保育園・幼稚園、小学校、中学校の学びの連続性が大切だと思う。
- ④ ICT教育では、子どもたちの情報活用能力の向上が必要である。
- ⑤ 外国籍の子どもの使用言語は、広範囲だと思う。言葉が通じないことから生じる心の問題も多いと思うので、より細やかな支援を行っていく必要がある。
- ⑥ 働きながら子育てをする家庭のために、保育園や学童クラブを充実し、待機児童を解消する必要がある。

答申のイメージ

- ① すべての就学前教育施設が密に連携し、幼児教育の質が向上している。
- ② 保護者や地域が学校と連携し、より良い学校運営が行われている。
- ③ ICT等の知識を持つ地域人材を活用した学校教育が行われている。

答申のイメージ

- ① 特別な支援を必要とする子どもとその保護者が、早期に個々の特徴にあった支援を受けられる体制が整っている。
- ② 特別な支援を必要とする子どもが、同世代の子どもと共に学んだり、交流し、豊かな体験をしている。
- ③ 乳幼児期から小・中学校までの成長に応じた連続性のある教育が展開されている。
- ④ 子どもたちが、情報化の進展に対応しながら、情報を的確に判断し主体的に活用する能力を身に付けている。
- ⑤ 外国籍の子どもがきめ細やかな支援を受け、言語の違いによる不安や負担を感じることなく、学校生活を送っている。
- ⑥ 仕事と子育ての両立を希望する家庭のニーズに対応した多様な保育サービスが提供されている。